

新潟県立図書館運営基本方針(令和6年度～令和8年度)

※  目標値を見直した項目

基本方針1 地域社会への貢献

地域に向き合い、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現を支えます。

重点目標 1 県の行政施策と連携した取組

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
1	県の行政施策をテーマとしたギャラリー展示の開催	県立図書館を利用した所属数	32所属 (34所属)	34所属 (31所属)	36所属	○ 展示についてはスペースや期間等の制約があるため現状維持とするが、図書貸出についてはPRを強化して利用増を目指す。
2	県の重点施策と関連した図書コーナーの設置					
3	県所属への図書貸出の実施					

重点目標 2 文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
4	新潟県関係資料の積極的収集と活用					
5	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	越後佐渡デジタルライブラリーのアクセス件数	23,500件 (22,783件)	23,750件 (23,495件)	24,000件	○ 事業開始から現在までに蓄積したデータの利活用に重点を置いて取り組んでいく。 ○ 定期的な利用を促すためのコンテンツとして、特定の資料にスポットを当てて紹介するコーナーを展開する等、親しみやすいページ作りに取り組むとともに、現在公開している情報についても内容のさらなる充実を図り、利用の増加に繋げる。
6	郷土人物/雑誌記事索引DBの充実	郷土人物/雑誌記事索引DBアクセス件数	12,600件 (12,669件)	12,800件 (14,430件)	13,000件	○ 引き続きデータの集積に取り組みスケールメリットを追求するとともに、新規データの公開時にはSNSを活用した広報を展開しアクセス件数の増加を目指す。 ○ 郷土に関する調査研究活動に有効なデータベースであることをPRし定期的な利用者の増加に繋げる。

基本方針2

県内図書館への貢献

県内図書館相互で顔が見える関係づくりをし、図書館サービスの向上に取り組めます。

重点目標 3 県内図書館等が実施するサービスへの支援

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
7	県内図書館等の貸出サービスへの支援	県内図書館等への協力貸出冊数	13,000冊 (12,915冊)	13,000冊 (11,053冊)	13,000冊	○ 資料費の削減により、購入資料点数が減少し、小規模図書館等セット図書の買い替えができないなど、厳しい状況である。手続きの簡便化や広報を強化することで、利用の継続を図る。
8	県内図書館等からの相談対応					
9	高等学校図書館への支援	高等学校図書館への協力貸出冊数	500冊 (1,619冊)	500冊 (1,878冊)	500冊	○ 電子書籍の利用促進と共に、紙媒体の資料の貸出についても手続きの簡便化や広報を強化することで利用の継続を目指す。

重点目標 4 県内図書館等職員の人材育成

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
10	県内図書館等職員対象の全体研修の実施	全体研修会・研究集会の参加人数	350人 (332人)	350人 (358人)	350人	○ 県立図書館の基幹業務である市町村図書館等の支援に引き続き取り組む。
11	県内図書館等職員対象の個別研修の実施(メニュー数4)	個別研修の実施回数	10回 (13回)	10回 (15回)	10回	○ 県立図書館の基幹業務である市町村図書館等の支援に引き続き取り組む。

基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献	誰もが尊重される共生社会の実現を目指して、県民一人ひとりの「知りたい・読みたい」を応援します。
------------------------------	---

重点目標 5 県民の読書環境の整備

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
12	県民の読書環境の整備	入館者数	400,000人 (288,044人)	300,000人 (306,136人)	300,000人	○ 休館日の増加や資料費の削減に加え、人口減少等の影響を考慮し、目標値は令和5年度の一日平均入館者数を維持する水準として、30万人とする。
		個人貸出冊数	415,000冊 (364,686冊)	350,000冊 (372,402冊)	350,000冊	○ 資料費削減の影響は大きいですが、図書の表紙を見せる展示等、見せ方の工夫や書棚のメンテナンスを行い利用者の関心を高めることにより、貸出の促進を図る。また、子育て応援の取り組みを進めることにより貸出につなげる。目標値は令和6年度の実績並みを維持するものとする。
		電子書籍閲覧回数	36,000回 (20,372回)	36,000回 (18,355回)	36,000回	○ 非来館型サービス充実のため、PRIに努めて利用増を目指す、コンテンツ数の大幅な増加が見込めないことから、目標値は現状維持とする。
		県内の読書バリアフリー環境の充実				
13	県民の調査研究活動の支援	レファレンス協同DB登録件数	40件 (42件)	40件 (41件)	40件	○ 郷土に関するテーマや県民の役に立つもの、汎用性があり調査研究活動を支援すると思われる事例を選定して登録していることから、目標値は現状維持とする。
14	読書による子育て応援	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	79,000冊 (70,632冊)	80,000冊 (78,694冊)	81,000冊	○子育て応援の取り組みを進めることにより、利用増を目指す。
15	SNSによる情報発信	SNSの投稿回数	120回 (136回)	120回 (147回)	120回	○ 若年層にも図書館や読書に関心を持ってもらえるように、お勧め本の紹介や周辺景観の話題等も合わせて積極的に発信していく。

重点目標 6 県立図書館職員の能力の育成

具体的取組		指標	目標値(実績)			目標値設定の考え方
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	
16	職員の研修機会の充実	外部講師による研修の参加回数	40回 (50回)	40回 (44回)	40回	○ 県立図書館職員のスキルアップが市町村図書館等支援の充実にもつながるため、司書職員全員が研修に参加できるよう環境を整備して取り組む。目標値は、司書正職員一人当たり2回以上研修に参加する回数を設定し、これを維持していく。
		職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回 (4回)	4回 (4回)	4回	○ それぞれの職員が、担当する業務などで得た知識について発表し、共有することで県立図書館職員のスキルアップを図る。目標値は4回(四半期に1回)とし、これを維持していく。

令和7年度 新潟県立図書館 運営基本方針重点目標に係る評価(案)

1 評価項目(指標)

(1) 基本方針1 地域社会への貢献

指 標	目 標	実績(4~1月)	見込(2~3月)	計	達成率	評価
ア ギャラリー展示の利用所属数 [県行政連携]	34 所属	3 所属	1 所属	31 所属 ※重複除く	92%	B
イ コーナー展示の利用所属数 [県行政連携]		15 所属	2 所属			
ウ 県所属向け図書貸出の利用所属数		9 所属	1 所属			
エ 越後佐渡 DL アクセス件数	23,750 件	18,923 件	4,572 件	23,495 件	99%	A
オ 郷土人物/雑誌記事索引DB アクセス件数	12,800 件	10,170 件	4,260 件	14,430 件	113%	A

(2) 基本方針2 県内図書館への貢献

指 標	目 標	実績(4~1月)	見込(2~3月)	計	達成率	評価
ア 県内図書館等への協力貸出冊数	13,000 冊	9,153 冊	1,900 冊	11,053 冊	85%	C
イ 高等学校図書館への協力貸出冊数	500 冊	1,878 冊	0 冊	1,878 冊	376%	A
ウ 全体研修会・研究集会の参加人数 [県内図書館等職員対象]	350 人	328 人	30 人	358 人	102%	A
エ 個別研修の実施回数 [県内図書館等職員対象]	10 回	13 回	2 回	15 回	150%	A

(3) 基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

指 標	目 標	実績(4~1月)	見込(2~3月)	計	達成率	評価
ア 入館者数	300,000 人	255,114 人	51,022 人	306,136 人	102%	A
イ 個人貸出冊数	350,000 冊	309,974 冊	62,428 冊	372,402 冊	106%	A
ウ 電子書籍閲覧回数	36,000 回	15,214 回	3,141 回	18,355 回	51%	E
エ レファレンス協同DB 登録件数	40 件	0 件	41 件	41 件	103%	A
オ 絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	80,000 冊	65,578 冊	13,116 冊	78,694 冊	98%	A
カ SNS の投稿回数	120 回	123 回	24 回	147 回	123%	A
キ 外部講師による研修の参加回数	40 回	42 回	2 回	44 回	105%	A
ク 職員が講師を務める館内研修の回数	4 回	3 回	1 回	4 回	100%	A

2 図書館協議会による評価

上記評価項目について、図書館協議会委員による外部評価を実施する。

- ・定量評価 (A=100%以上 B=90~100% C=80~90% D=70~80% E=70%未満)
- ・総合評価 (A=成果を上げている、B=順調に進んでいる、C=概ね順調に進んでいる、D=順調に進んでいるとはいえない、E=事業の見直しが必要)

令和7年度新潟県立図書館運営基本方針 重点目標に係る取組状況（実績・見込）

資料 3

基本方針1 地域社会への貢献

・ 定量評価（A=100%以上 B=90～100% C=80～90% D=70～80% E=70%未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている、B＝順調に進んでいる、C＝概ね順調に進んでいる、D＝順調に進んでいるとはいえない、E＝事業の見直しが必要）

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績（4～1月）	見込（2～3月）	計	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県の行政施策と連携した取組	県の行政施策をテーマとしたギャラリー展示の開催	・ 県各部署への周知 ・ 展示の実施	県立図書館を利用した所属数	34所属	○ ギャラリー展示は一般県民の利用とのバランスも図りながら、行政連携の充実に向けて引き続き各部署等へのPRに取り組んだ。 ＜実績＞ 7月 土木部道路建設課（にいがた『道』フォトコンテスト実行委員会）「にいがた「道」フォトコンテスト入賞作品展」 10月 環境局資源循環推進課「「食品ロス」削減に向けたパネル展」 11月 農林水産部林政課「にいがたフォレストリーマガジン写真展」 12月 環境局資源循環推進課「「海洋プラスチックごみ」削減に向けたパネル展」	3所属	1所属			○ 県職員ポータルサイトで呼びかけるなど行政連携展示のPRに努めて目標達成を目指したが、希望する展示期間が重複した所属があり目標は達成できなかった。 ○ 次年度も、行政連携展示のPRに努めつつ、ギャラリー展示と関連するテーマ展示を連携して実施するなどして、県行政に係る情報発信の充実を図る。	B	
	県の重点施策と関連した図書コーナーの設置	・ 県各部署への周知 ・ 展示の実施			○ 県施策に関する図書のPR展示について、県職員ポータルサイトで利用の呼びかけを行った。申込があった所属に対しては展示に関する要望を聞き取って展示に反映させた他、展示後はその様子を撮影した写真や利用状況を共有することで、展示の効果を感じてもらえるよう取り組んだ。 ＜実績・予定＞ 4月 新潟県発達障がい者支援センターRISE、県立近代美術館、県立万代島美術館、政策企画課 5月 県立植物園、県立歴史博物館 6月 生活衛生課 7月 県立近代美術館 8月 県立万代島美術館、県立歴史博物館 9月 高齢福祉保健課、新潟県消費生活センター、障害福祉課 10月 県立近代美術館、健康づくり支援課、新潟県労働委員会、県立歴史博物館 11月 健康づくり支援課、林政課 12月 危機対策課、空港課 1月 南魚沼地域振興局、福祉保健総務課援護恩給室、健康づくり支援課 2月 県精神保健センター、新潟県消費生活センター 3月 障害福祉課、健康づくり支援課	15所属	2所属	31所属 内訳： ・ ギャラリー展示4所属（前年度実績5所属 対前年度比80%） ・ 図書コーナー設置17所属（前年度実績13所属 対前年度比131%） ・ 図書貸出10所属（前年度実績16所属 対前年度比63%） ※重複除く	達成率92% 評価（4）90～100%	○ 県職員ポータルサイトでの呼びかけにより、半年先の予約も入るなど多くの所属が利用している。「○○月間」に合せて定期的に活用する所属があるほか、過去に利用した担当者が異動先の部署の施策で依頼するなど、利用が広がってきている。利用先の担当者からは「実施して良かった」とのコメントも寄せられている。 ○ 上半期に（独）国立造幣局から当館に寄贈された岡田紅陽のコンテ画（旧千円札「富士山」複製）公開にあわせ、関連展示を実施した。 ○ 下半期の「旧優生保護法補償制度」関連展示を紹介したSNSの投稿に対し「継続すべき取組」とのリポストもあるなど、展示に関心を持ってもらっていることがうかがえた。 ○ 今後も県の行政施策への県民の理解を深められるよう、幅広い部局と連携していく。		
	県所属への図書貸出の実施	・ 県庁貸出の手続改善 ・ 県各部署への周知			○ 県職員ポータルサイトで利用の呼びかけを行った。	9所属	1所属			○ 昨年度から継続してサービスのPRに努めたが、定期的に利用する部署や異動先でも継続して活用する職員がいる一方、新規の所属を増やすことができなかったため、目標を達成できなかった。次年度以降はPRの回数を増やすなど、更なる周知を図っていく。 ○ 利用にあたって各職員が資料を検索・特定して申込み必要があり、この手間も利用につながらなかった一因と考えられるため、次年度以降はレファレンス相談から資料の利用につながるような取組も検討していく。 ○ 上記と併せて、所属のニーズを掴む手段を検討していく。また、県職員ポータルでの呼びかけ以外にも、サービスを利用したくなる効果的なPR方法を模索していく。		
文化資産としての	新潟県関係資料の積極的収集と活用	・ 出版情報の多角的な把握 ・ 積極的収集と展示 ・ 書庫等の保存環境の整備 ・ 行政資料の収集・展示			○ 出版情報の収集から資料を入手して受入するまでの一連の業務の効率化を図るため、作業を細分化し複数の職員で取り組んでいる。また、今年度は特に、現在活躍中の新潟県出身作家による文芸作品のうち当館未所蔵のものを遡って調べ、入手可能なものを積極的に購入した。 ○ 毎月テーマを設定して閲覧室内で行っている資料展示について、郷土との関わりが深く、かつ親しみやすい内容とするとともに、他機関が主催するイベントとの連携展示も率先して実施した。 ＜実績・予定＞ 4月 新潟春の花めぐり 5月 北前船の世界 6月 新潟県の近代医学 7月 新潟県の米 8月 【連携】県立歴史博物館「戦後80年 私の戦争体験記－銃後の日々－」展 9月 2025年は昭和100年 新潟県の昭和 10月 【連携】県立歴史博物館「飴（あめ）・糖（あめ）・あめ」展 12月 没後70年坂口安吾展 1月 現在活躍中の新潟の作家たち 2月 新潟県の酒、【連携】県立文書館主催講演会「上杉謙信とその生涯」					○ 利用者の関心が高い、現在活躍中の県内出身作家の未所蔵作品を積極的に収集し資料展示を行った結果、郷土資料の貸出冊数は文学を中心に昨年同期比で増加した。今後も他機関主催イベントとの連携展示や、利用者の関心が高いテーマを中心としながら多岐にわたる資料展示を行い、郷土資料のPRに努める。 ○ 引き続き出版情報を収集し、郷土資料の幅広い入手に努め、充実を図っていく。		

-- 郷土資料の収集・保存・活用	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	・デジタル資料の追加 ・利用環境の整備 ・利用者へのPR	越後佐渡デジタルライブラリーのアクセス件数	23,750件	○ デジタルライブラリーのトップ画面でデジタル化資料を様々な切り口で紹介してPRに努めるとともに、更新の都度、ホームページや当館SNS、県庁ポータルサイトで情報発信を行った。 <実績・予定> 4月 明治記念新潟県立図書館 ※新潟県立図書館110周年関連 6月 鳥瞰図 8月 幕末維新の長岡三傑 10月 越後の妖怪 ※新潟県立近代美術館主催「オバケ？」展関連 12月 縁起物 ○ 毎年1月に開催しているギャラリー展示「新春掛軸展」で、一部の作品は越後佐渡デジタルライブラリーで閲覧可能である旨をホームページや会場に掲示した展示作品のリストに追記し、利用促進を図った。	18,923件	4,572件	23,495件 (前年度実績22,783件 対前年度比103%)	達成率99% 評価 (4) 90~100%	○ 県立図書館のトップページからアクセスすると検索画面が表示され、デジタルライブラリーのトップ画面へのアクセスが2段階となるホームページの仕様上の課題がある。一方でSNSのスレッド機能を活用した投稿を行うなど、関心を寄せてもらえる工夫を凝らした結果、小幅ではあるがアクセス件数は昨年度と比較し増加し、目標を概ね達成した。 ○ 次年度もデジタル化資料の魅力の発信に努めて、目標達成に向けて取り組んでいく。	A	
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	・データの登録 ・県民へのPR	郷土人物/雑誌記事索引データベースのアクセス件数	12,800件	○ ニーズの掘り起こしを目指して、郷土人物/雑誌記事索引データベースのトップ画面に、当データベースを活用した調べ方を紹介しているレファレンス協同データベースへのリンクを作成し、その利便性をPRしている。今年度は、リンクを2件追加した。 ○ 今年度もページの更新に加え、データベースに収録するタイトルを追加するなどデータベースの充実に取り組んだ。また更新時にはホームページや当館SNSで情報発信を行い、利用促進を図った。	10,170件	4,260件	14,430件 (前年度実績12,669件 対前年度比114%)	達成率113% 評価 (5) 100%以上	○ データ更新時に当館ホームページやSNS等で積極的に情報を発信した結果、昨年度と比較してアクセス件数が増加し、目標達成につながった。 ○ データベースの利点について、活用事例等を通じて今後も周知するとともに、より充実したものとなるよう、引き続きデータベースに収録するタイトルの拡大にも取り組んでいく。	A	

基本方針2 県内図書館への貢献

・ 定量評価（A=100%以上 B=90～100% C=80～90% D=70～80% E=70%未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている、B＝順調に進んでいる、C＝概ね順調に進んでいる、D＝順調に進んでいるとはいえない、E＝事業の見直しが必要）

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績（4～1月）	見込（2～3月）	計	達成率・評価	自己評価	総合 評価	協議会 意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等の貸出サービスへの支援	・ 県民へのPR ・ 小規模図書館等へのセット図書の貸出 ・ テーマ別セット図書の貸出	県内図書館等への協力貸出冊数	13,000冊	○ 協力貸出や市町村立図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービス、セット図書長期一括貸出を行った。 ○ 県内市町村立図書館、県立学校の職員が参加する会議や研修会のほか、訪問研修の際などの機会をとらえて相互貸借の利用を呼びかけた。	9,153冊	1,900冊	11,053冊 （前年度実績12,915冊 対前年度比86%）	達成率85% 評価（3） 80～90%	○ テーマ別セット図書貸出サービスの利用は増加しているが、セット図書長期一括貸出の利用は前年度54セットから37セットに減少したこともあり、目標を下回った。 ○ セット内容の陳腐化も伸び悩みの一因と考えられるため、限られた予算の中ではあるが長期一括貸出のセット図書の一部を刷新し、リニューアルしたセット図書による利用促進に向けて取り組む。 ○ テーマ別セット図書貸出サービスは県立がんセンター図書室や県内の大学など、市町村立図書館等以外からの利用もあったため、今後も広くサービスの利用拡大につなげていく。	C	
	県内図書館等からの相談対応	・ 内容に応じた適切な情報提供 ・ 相談・打合せなど、様々な機会を捉えた訪問の実施			○ 県内図書館等からの相談や照会について随時対応し、状況に応じて訪問相談の実施や参考となる事例などの情報提供を行った。 ＜電話等による相談・照会等対応＞ ・ 県内各館の相互貸借送料取扱い（受益者負担の有無等）の状況 ・ 視聴覚資料の装備の実務 ・ 詩集等編集著作物の複写利用の取扱い ・ 全国の電子図書館・電子書籍の導入率 ＜訪問相談実績＞ 県立村上高等学校、県立村松高等学校、県立新潟中央高等学校、長岡市立中央図書館（オンライン）、柏崎市立図書館					○ 訪問相談の事後アンケート結果では高い満足度が得られており、実施の効果があがっている。次年度も相談内容に応じた適切な情報提供に努めるとともに、訪問相談を希望する図書館に限らず、様々な機会を捉えて各館を訪問して情報交換を行うなど、市町村支援の充実を図っていく。		
	高等学校図書館への支援	・ 高等学校への訪問相談 ・ 協力貸出の推進	高等学校図書館への協力貸出冊数	500冊	○ 学校向け電子書籍サービスの説明会にあわせて、協力貸出のPRも行った。 ○ 通常の貸出サービスに加え、所在する自治体の公立図書館等が長期休館のため窓口での資料受け取りができない県立学校について、長期休館中のみ資料を学校へ直接送付するサービスを実施した。 ○ 新潟県高等学校図書館協議会が作成した「学校司書がすすめる本」リストの連携展示を実施予定（3～4月）。 ＜訪問相談実績＞※高校分再掲 県立村上高等学校、県立村松高等学校、県立新潟中央高等学校	1,878冊	0冊	1,878冊 （前年度実績1,619冊 対前年度比116%）	達成率376% 評価（5） 100%以上	○ 協力貸出のPRを続けた結果サービスが学校側に一定程度浸透し、目標を大きく上回ることができた。 ○ 自治体の図書館等が休館中に限り資料を学校へ直接送付するサービスを利用した学校が1校あったが、対象期間終了以降は利用がなかったため、今後は学校側のニーズを更に把握した上で、サービスの提供方法について検討していく。	A	
県内図書館等職員の人材育成	県内図書館等職員対象の全体研修の実施	・ 図書館現場のニーズに沿ったテーマの設定 ・ 階層別研修等の実施 ・ オンラインとの併用	全体研修会・研究集会の参加人数	350人	○ 新任職員研修会はより多くの参加が得られるよう、集合型とオンラインの併用で開催した。 ○ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会も集合型とオンラインの併用で開催し、県内外から2日間で延べ290人の参加があった。 ＜実績等＞ ①新潟県公共図書館新任職員研修会 61人（1日目・会場21人、オンライン10人／2日目・会場22人、オンライン8人） 39人 ②障害者サービス研修（第1回）（オンライン） 39人 ③関東地区公共図書館協議会研究発表大会（併・県総合部門研究集会） 103人（1日目・会場17人、オンライン32人／2日目・会場20人、オンライン34人） ④新潟県公共図書館中堅職員研修会 30人 ⑤障害者サービス研修（第2回）（オンライン） 29人 ⑥新潟県公共図書館児童部門研究集会（オンライン） 48人 ⑦障害者サービス研修（第3回） 18人 ⑧新潟県公共図書館専門職員研修会 ※3月予定	328人	30人	358人 （前年度実績332人 対前年度比108%）	達成率102% 評価（5） 100%以上	○ 一層の研修効果が得られるように、図書館現場のニーズに沿った研修テーマや内容の選定、講師等との調整を行った結果、研修等の参加者アンケート結果では高い満足度が得られた。 ○ 次年度以降も、受講者の知識・経験を考慮しながら、各館の人材育成やサービス向上につながる研修を開催することによって、県内図書館サービス全体の充実を図っていく。	A	
	県内図書館等職員対象の個別研修の実施（メニュー数4）	・ 受講者アンケートの実施 ・ 研修内容の改善	個別研修の実施回数	10回	○ 各館の要望を踏まえて研修を準備・実施し、各館のサービス向上を支援した。 ＜実績等＞ ①地域資料の収集と管理の基礎（南魚沼市図書館、上越市立高田図書館） ②資料の修理や保存の基礎（新発田市立歴史図書館、胎内市図書館、新潟市立黒埼図書館、三条市立図書館、長岡市立互尊文庫、五泉市立図書館） ③初級レファレンス（十日町図書館、田上町地域学習センター） ④郷土レファレンス（胎内市図書館、刈羽村立図書館、長岡市立中央図書館、村上市立中央図書館、新発田市立中央図書館）	13回	2回	15回 （前年度実績13回 対前年度比115%）	達成率150% 評価（5） 100%以上	○ 研修受講者アンケートや市町村との意見交換等での要望を踏まえるとともに、訪問館への聞き取りを行い、研修内容をアレンジするなどして、各館に合った実践的な研修となるよう取り組んだ。 ○ 次年度以降も訪問相談とあわせ、個々の市町村の要望に沿った個別研修の更なる充実を図ることで、県内図書館サービス全体の充実につなげていく。	A	

基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・ 定量評価（A＝100％以上 B＝90～100％ C＝80～90％ D＝70～80％ E＝70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている、B＝順調に進んでいる、C＝概ね順調に進んでいる、D＝順調に進んでいるとはいえない、E＝事業の見直しが必要）

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績（4～1月）	見込（2～3月）	計	達成率・評価	自己評価	総合 評価	協議会 意見
県民の読書環境の整備	県民の読書環境の整備	・ 利用しやすいレイアウト変更等 ・ 資料の充実 ・ 電子書籍サービスの充実 ・ 読書バリアフリー環境の充実	入館者数	300,000人	○ 館内のテーマ展示の工夫や、文書館・生涯学習推進センターのイベントや行政連携展示と連携した展示など、興味・関心を持って来館してもらえるよう取り組んだ。 ○ こむすびルームや電子書籍サービスの利用をきっかけに来館利用が伸びるように、各種サービスの広報を積極的に行った。	255,114人	51,022人	306,136人 （前年度実績288,044人 対前年度比106％）	達成率102％ 評価（5） 100％以上	○ 見直し後の目標値は、達成することができた。（開館日1日当たり1,017人・対前年度比99％） ○ 次年度も、図書館サービスの充実に加えて預かり保育サービスや電子書籍サービス、閲覧室展示等の魅力発信に継続して取り組み、目標達成につなげていく。 ○ 複合施設である強みを活かし、引き続き3館で連携して取組を進めながら、入館者の増につなげる。	A	
			個人貸出冊数	350,000冊	○ 資料費が年々削減されているが、今年度も限られた予算の中で効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図った。 ○ こむすびルームの預り保育サービスをきっかけに図書館の資料を利用してもらえるように、一般資料も含め新着図書コーナーのメンテナンスを恒常的に行う等、魅力ある棚作りに努めた。	309,974冊	62,428冊	372,402冊 （前年度実績364,686冊 対前年度比102％）	達成率106％ 評価（5） 100％以上	○ 資料費が削減される中で、より効果的・効率的な選書と、展示等による資料のPRに取り組んだ。 ○ 児童用新着棚で行った恒常的な資料補充等のメンテナンスと同様に、一般資料の新着図書コーナーでもメンテナンスを行ったことが、貸出増加につながった一因と思われるため、次年度以降も同様の取組を続けていく。 ○ 複合施設である強みを活かし、3館が連携した取組を進めることで貸出冊数の増加を図る。	A	
			電子書籍閲覧回数	36,000回	○ 新規利用者の獲得を目指し、県内の図書館等に訪問して電子書籍の使い方を案内し、操作を体験してもらう体験会を実施した。今年度は読書週間に合わせ10月から11月に、新潟市江南区、上越市の高田地区と直江津地区、十日町市、南魚沼市の5か所で開催したほか、図書館職員対象の会議や訪問研修等の機会も活用してPRを行った。 ○ 6月から毎月、当館SNSに電子書籍の閲覧回数ランキングを投稿して情報を発信し、さらに12月からは、記念日等に合わせて関連するコンテンツを出版社の使用許諾を得た書影とともに紹介するなど、電子書籍サービスの認知度向上を図った。 <実績・予定> 12月 漢字の日『漢字なりたち図鑑』 1月 鏡開き『餅と日本人』 2月 冬季オリンピック『くらべてわかる国旗』、猫の日『作家と猫』 3月 サボテンの日『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』、動物愛護デー『いきもの寿命図鑑』 ○ 電子書籍サービストップページにある本棚のテーマを、閲覧回数等を参考に利用状況を把握し、ニーズに合ったものへ変更した。	15,214回	3,141回	18,355回 （前年度実績20,372回 対前年度比90％）	達成率51％ 評価（1） 70％未満	○ 利用拡大を目指して体験会や当館SNSを活用した広報を実施しているが、新規コンテンツの購入点数減少等により利用者の興味を喚起する効果が小さくなっており、閲覧回数は昨年同期比の約90％、今年度の目標値の50％前後にとどまっている。 ○ 体験会では利用登録の申請はあるものの、その後の閲覧回数が増えておらず、固定ユーザーの獲得には結びついていないと思われる。このため、厳しい財政状況の中において限られた予算ではあるが、ニーズに合ったものを提供できるよう、きめ細かい選書を心がけ適切な資料構築に取り組んでいく。また、当館SNS等でのコンテンツ紹介やトップページの本棚のテーマ更新等、各種PRを継続しながら「どこでも利用できる」電子書籍の魅力を発信していく。 ○ 図書館に限らずイベントなど人の集まる場所での体験会などを実施し、電子書籍サービスのPRに取り組んでいく。	E	
			県内の読書バリアフリー環境の充実		○ 県視覚障害者情報センター並びに県聴覚障害者情報センターと連携して市町村図書館等職員向けの障害者サービス研修を行い、県内図書館における障害者サービスのボトムアップを図った。 ○ 読み上げや白黒反転表示等のバリアフリー機能を持つ電子書籍や大活字本、LLブック、触る絵本等の障害者サービス用資料の充実を図った。 ○ 12月に読書バリアフリー展示会と体験会を開催した。					○ サビエに関する問い合わせや障害者サービスの新規利用登録があり、対面朗読サービスやデジジー図書の貸出サービスが継続して利用されている。今後も広報を続けて普及を図っていく。 ○ 視覚障害のない児童が、触る絵本を借りて行くような状況も生まれている。障害者サービスへの理解・普及のために、今後も引き続き資料の充実を図る。 ○ 今後も研修等を通じて、利用者の障害の特性に応じたサービスの提供方法について検討していくとともに、携わる職員への研修にも継続して取り組んでいく。		
	県民の調査研究活動の支援	・ 調査相談（レファレンス）機能の向上 ・ 県民へのPR	レファレンス協同データベースの登録件数	40件	○ 利用者から寄せられた調査相談から、郷土に関するテーマを中心に、県民の調査研究活動に資する事例を精査し選定、登録した。 ○ 特定のテーマやトピックの情報源を案内する調べ方マニュアルについても、今年度新たに登録を行った。	0件	41件	41件 （前年度実績42件 対前年度比98％）	達成率103％ 評価（5） 100％以上	○ 今年度は、当館がこれまでにレファレンス協同データベースで公開した事例770件に対して、130,817件のアクセスがあった。このうち「節分」についての事例はレファレンス協同データベースのSNSで季節のトピックとして紹介されたこともあり、参照数約55,500件と大幅な伸びを記録している。（2026年2月現在） ○ 次年度以降も、県民の調査研究活動を支援するため、より良い事例を精査して登録していく。	A	

県民の読書環境の整備	読書による子育て応援	・こども向けイベントの実施 ・利用環境の整備	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	80,000冊	○ 児童コーナーの新着棚や展示棚、面出しスペース等を十分に活用できるよう、常に資料補充等のメンテナンスを行うよう心がけた。 ○ 定例の読み聞かせイベントに加えて、ボランティアによる読み聞かせイベントも継続して開催することによって、児童サービスの充実を図った。また、こむすびルームを活用して読み聞かせや上映会等のイベントを実施した。 ○ 日々の書架整理や新着資料の即時配架など、資料提供の基本的な業務を確実に実践するとともに、読み聞かせイベント等の、本と人をつなぐ場の充実に取り組んだ。	65,578冊	13,116冊	78,694冊 (前年度実績70,632冊 対前年度比111%)	達成率98% 評価(4) 90～100%	○ 預かり保育や新着棚のメンテナンス等の取組により前年度比では増加となり、目標は概ね達成した。次年度はさらに面見せスペースを増やすなど、貸出冊数の増加に取り組んでいく。 ○ 読み聞かせイベントも参加者が増加しており、預かり保育をきっかけに参加する親子も見られる。次年度も参加者と貸出の増加につながる魅力的なイベントづくりに取り組んでいく。 ○ こむすびルームのイベントでは、図書館利用と資料の貸出につながる様に、関連展示や図書館サービスのPR等を行っていく。 ○ 複合施設である生涯学習センターの児童・子供向けイベントとも連携した取組を進めることで、貸出冊数の増加を図る。	A	
	SNSによる情報発信	・投稿内容の充実 ・効果的な情報発信	SNSの投稿回数	120回	○ SNSの特性を活かして、利用者が閲覧しやすい時間を意識しつつ予約投稿をしたり、利用者の興味を喚起するためにクイズ形式の投稿を行うなど、フォロワーの増加も目指して情報発信に取り組んだ。	123回	24回	147回 (前年度実績136回 対前年度比108%)	達成率123% 評価(5) 100%以上	○ 連携イベントの情報や電子書籍サービス、越後佐渡デジタルライブラリー等のPRをSNSで発信し、幅広い年齢層に向けた周知に力を入れた結果、目標を達成した。 ○ 次年度以降も、図書館の情報発信に積極的に取り組んでいく。	A	
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	外部講師による研修の参加回数	40回	○ 課や職員同士で業務を分担しながら職員の受講機会の確保を図るとともに、遠隔地での研修であってもオンラインで参加できる研修には積極的に参加するなど、様々な研修への参加により、職員の知識・能力の向上を図った。 <主な実績> ・図書館司書専門講座(オンライン併用) ・関東地区公共図書館協議会研究発表大会(オンライン併用) ・こども読書レベルアップ研修会(オンライン併用) ・読書バリアフリー研究会 ・北陸地区公共図書館職員研修会(オンライン) ・社会教育関係職員等研修会(オンライン) ・シンポジウム 図書館とWebサイト(オンライン) ・障害者サービス担当職員向け講座(オンライン併用) ・全国公共図書館研究集会サービス／総合・経営部門(オンライン) ・ワークショップ図書館の未来準備(オンライン) ・JLA認知症バリアフリー図書館特別検討チーム研修会(オンライン) ・関東・甲信越静地区図書館地区別研修(オンライン併用)	42回	2回	44回 (前年度実績50回 対前年度比88%)	達成率105% 評価(5) 100%以上	○ 業務分担の柔軟な変更や館内の協力体制を築くことにより、司書専門講座や地区別研修等の全国規模の研修等の参加機会を確保して司書職員の能力向上を図ることができた。 ○ オンライン等を活用することにより、次年度以降も研修の参加機会を確保し、職員の資質向上による図書館サービスの充実を図っていく。	A	
			職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回	○ 実務への活用度を重視した四つの研修テーマを決定し、職員が講師を務める研修を実施した。 <実績・予定> 「児童サービス研修」(5月) 「障害者サービス研修」(10月) 「郷土資料研修」(12月) 「図書修理研修」(2月予定)	3回	1回	4回 (前年度実績4回 対前年度比100%)	達成率100% 評価(5) 100%以上	○ 四つのテーマのうち、希望する研修を一つ受講することで、図書館業務のスキルアップにつながった。また、講師を務める職員は、講義を行うことで知識の定着が図られ、発表のスキルアップにつながった。 ○ 研修の開催に当たって、目的及び研修後に目指す姿を明確にすることにより、職員が具体的な目的意識を持って受講できるようにした。 ○ 次年度計画の立案に当たっては、実施後のアンケート結果を踏まえて研修内容の更なる改善を図り、県内公共図書館職員向け研修での講師となる人材の育成に取り組んでいく。	A	